

2024 年度

国 語

最初に、以下の^{ちゅういじこう}注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は^{かんとくしゃ}監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 問題冊子および解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

| | |
|------------------|--|
| 受 験 番 号 | |
|------------------|--|

* 解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 〽 の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。

ケンテイ試験を受ける。

ソナえあればうれいなし。

文章コウセイを考える。

彼とはキュウチの間柄だ。

心の師としてウヤマウ。

となりの土地とのキョウカイ。

問二 次の熟語と同じ成り立ちのものを一つ選び、記号で答えなさい。

「道路」

ア、樹木 イ、清書 ウ、在室 エ、入港

問三 次の四つの漢字は、ある共通する部首をつけると別の漢字を作ることができる。その部首名をひらがなで答えなさい。

多・斗・火・必

問四 次の 対になる漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

大 小

問五 次のことは慣用句である。() () に入る漢字の総画数を漢数字で答えなさい。

出る () () がない。

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本屋のロゴ入りトートバッグが丸いテーブルの上に置かれる。

中に入っているものはかなり小さいようで、重力に負けてバッグの形が 1 ぐずれた。たいして重くはなさそうだけど、持ち手がひとくりにされているから中身は見えない。

いったい何が始まるんだろう。とりあえずベンチに座って見守る。右隣の佐々木顔に「？」をたくさん浮かべつつ、おとなしく口をつぐんでいる。

幹は俺の正面の席に腰を下ろすと、バッグの持ち手の結び目をほどこき、底を持ち上げるようにしてふった。ころんと出てきたのは、黒い何かだった。

2 柔らかい、……シリコンかな？ おそらくそういう素材でできていて、ベルトくらいの長さがあるけどそれにしても幅が広くて、くるくる巻かれた状態の物体。端っこに硬くて平べったい部分があり、どうやら機械らしく、ボタンがいくつもついている。

え、何これ？ やっぱり気になって質問しようとしたとき、幹の手がその巻かれた物体をぱつと広げた。

現れたのは白黒の鍵盤だった。

「ピアノー！」

「すげえー！」

興奮して佐々木と声が重なる。顔を見合わせて、ふたりとも黙った。それから鍵盤を見つめる。

持ち運び可能なピアノかあ。いやキーボードってものの存在は知ってるし、鍵盤ハーモニカなら自分でも使ったことあるけど、そういうのより断然軽くてコンパクトで、こんなふうに丸められるものがあるんだ。

「ヘッドフォンが挿せるから、夜に練習するとき用にお年玉で買ったんだ。本物のピアノとは弾き心地がちょっと違うんだけど

……」

幹は電源スイッチを押した。バッテリーが内蔵されているらしい。指がためしにいくつかキーを押すと、押された部分がちゃんとへこんで、スピーカーから対応する音が鳴った。

「おもしろー、オレこーういうの好き」

佐々矢が満面の笑みを浮かべると、幹は「うん」と応じた。でもどこかうわの空で、「それじゃ……」とつぶやいた声もよわよわしい。

あ、始まるのか。これは オーディション だって、幹が自分で言ったんだもんな。

けどどいつたいう立場で見てたらいんだらう。俺がひとりであわあわしていると、幹の、小さめだけど指の形がしっかりした手が、鍵盤の上にかざされた。

でもまだ触ろうとしない。

指先がふるえてる。……緊張してるんだ。観客はたった三人なのに？ それとも、こんなに近くで見られるのに慣れてないから？

硬い表情のまま幹は視線を左に向けた。そこには、鯨井さんがいた。

さつきからずつと黙りこんでいた鯨井さんが、それに気づいて見つめ返す。とくに何を言うわけでもなく。

だけど、交わしたんだと思う。背中をぼんと押すような何かを。だって幹が、一度大きく息を吐ききって、真剣なまなざしでピアノに向き合ったから。

鍵盤にふたつの手が下りてくる。

いくつもの音がいつせいに、鳴る。

とん、とん、とん、とんと一定のリズムで、階段を降りるみたいなイントロ。この曲どっかで聞いたことある。小学生のときだったかな。学習発表会みたいな行事で、上の学年が合唱してたような……。

すっ、と幹が息を吸う。

そして歌い出す。かき消されそうに、かぼそい声で。

公園のざわめきにも風にも、あつげなく負けちゃいそうだ。だとしても、やっぱりきれいな声だと思った。一音一音、優しく話しかけるように歌うから、聞き洩らしたくなくて誰もが「A」を澄ませる。

佐々矢もそうだけど、楽器を弾きながら歌えるって、やっぱりとんでもない能力だ。身体**からだ**のべつべつのパーツを同時に動かしてるわけで、いちいち頭で考えてたらとても間に合わない。脳みそじゃなく、指と口がそれぞれ音符**おんぷ**を記憶**きおく**してるって感じなのかな？

あ、わかった。これ《少年時代》だ。

俺がタイトルを思い出すころには、一番が終わり、間奏に入っていた。小さくハミングしながら、幹はていねいにキーを押ししていく。ときどきちよつと弾きにくそうで、本物のピアノとは違うって言うたのは、こういうところなのかもしれない。

二番へ進むために、幹はまた息を吸う。

だけどその瞬間しゆんかん、なぜかぴたつと止まってしまった。

三秒も経たずに演奏は再開された。けど、……んん？ 間奏の初めのほうに戻**もど**ってる？

「カノちゃんも歌ってよ」

手を動かし続けながら幹が言う。あ、そのために弾き直したのか。

指名された鯨井さんは、「ええー」と渋い顔をした。

「宇多田**うただ**ヒカルみたいに？ ハードル高いなあ」

裏腹に声は楽しそうだ。

間奏が終わりに差しかかり、ふたりは目を合わせる。ことばじゃなくて身体**からだ**のわずかな動きだけで、さん、はい、って呼吸を合わせて。

鯨井さんが歌い出す。

ころころ歌い方を変えていた校歌とは違って、ゆったりと、ていねいに。決して暗いわけじゃないんだけど、どこかさみそ

うな雰囲気^{ふんいき}で。そうやって表現してるんだと思った。この曲が伝えたいことを。もしくは、この曲そのものを。

幹も同じ高さで歌いながら、鯨井さんの歌い方に合わせて、演奏するスピードや強弱を調節してる感じがする。ふたりは音楽を共有してる。楽しむ方法を知っている。

そのとき、3 気づいた。

わたしはじゃんけんで負けたー。

図書委員になつたのは偶然の結果だと鯨井さんは言っていたけど、同じ委員会に幹がいると知ったとき、その偶然がうれしかったんじゃないだろうか。いったんはつながりが切れてしまった仲間と、また過ごせるかもしれないって。グループ研究の誘いに迷わずのつたのだったって、きつと。

もしかして、幹が図書室で歌う気になつたのも、隣に鯨井さんがいたから？

芝生のフィールドからは相変わらず小学生たちのはしゃいだ声が聞こえてくる。ボールを蹴り上げる鈍い音も、絶え間なくやまましい蝉も。公園の周りの幹線道路から、トラックやバイクのエンジン音までもが。

耳に届くすべてが溶け合っつてひとつになって、ついに終わりを迎えて、ふわつとはじける。

佐々矢がばち手をたたき、「ぶらぼー」って声をあげるから、俺も手をたたいて、「ぶらぼー」って言う。ほめことばも、拍手も、全部本気だ。

幹は顔を真っ赤にして、ほつぺたの汗を手首でぐいつとぬぐった。

「それでオーディションの結果は？」

鯨井さんが尋ねると、佐々矢はぶんぶん首をふった。

「オーディションなんて必要ないだろ。ライブのつもりで聴いてた。よな？」

「うん。いいライブだった」と俺は頷く。

「だそですよ、瀬尾くん」

鯨井さんのわざとらしい言い方に、幹はもそもそ身体を動かした。それから、あらたまった態度でぺこりと頭を下げた。

「返事が遅くなつてごめんね。グループ研究に誘つてもらえて、すぐうれしかったんだけど。迷っちゃって……」
「ほかにやりたいテーマあったか？ あ、もしかしてもう声かけられてた？」

「こんだけつまかつたらみんな組みたがるだろ、と佐々矢がライバルの存在を警戒し始めると、幹はあわてたように手をふつた。
「ううん、全然！ 僕がピアノ弾けるって知ってるひと、今のクラスにほとんどいないと思う。というか、知られたくなくて」
「どうして？」

「きよとんとして鯨井さんが訊き返した。知ってて当然でしょ、っていうか自慢できることでしょと言いたそつに。
「ただど幹の顔色は、明らかに曇つた。」

「……からかわれるから」
「はあ 誰に！」

「鯨井さんがきつい声を出す。ここまでストレートに怒りを表したのは初めてだ。問いつめるような勢いがあつて、つまりめちゃくちゃおつかなかつたので、俺はぎくつとした。」

「幹は慣れてるのかあまり動揺してない。ただ、目をそらす。」

「音楽の授業とか、集会とかで僕が歌い始めると、……みんな、にやにやしてこつちを見る」

校歌。

終業式。……口パク。

頭の中で一気にパズルが組み合わさつて、思いもよらない形になって、呆然とする。

「そつか。だから隣の列に立つてたあるとき、歌ってなかつたのか。暑いからとかだるいからとかじゃなくて、声を出したくない理由がはつきりあつたんだ。」

「あと『ミキちゃん』ってやたら呼ばれたり『かわいい』って言われたり。やめてほしいって何回か伝えただけ……。これ以上そついうネタにされそつなこと、知られたくない」

「誰。名前教えて」

なおもせまる鯨井さんに、幹は言いよどんで唇を閉じた。教えたらずいことになると感じたか、あるいは具体的に誰とい
うわけじゃないのか。

そもそも、そんなやつの名前、自分の口で発音するのすら嫌かもしれない。

「……今日来てくれたのは、なんで？」

佐々矢がいきなり話題を変えた。

鯨井さんが大事な話の途中だと言いたげにキツとにらむ。にらまれたほうはまともにならなれず、それを受け止めたけど、するりと受け流
して、重ねて言った。

「な、教えてくれない？」

すぐには返事がなかった。

幹はまばたき以外の動きを止めてしまっている。でもその顔を見ると、頭と心が、すごいスピードでぎゅんぎゅん回転して
るを感じた。自分なりのことばを見つけるために、必死に格闘してる最中なのを。

その隣で、鯨井さんはまだ険しい表情を浮かべている。納得がいかないだろう。だけど急かそうとはしないで、友だちが話
し出すのをじっと待っている。

「……この四人で、やりたくなつた、から」

途切れとぎれに幹がしゃべった。

「っていうのは、だめ、かな……？」

びくびくしながらうかがってる声。

どんな反応をされるだろう、否定されるんじゃないかって、おそれてる声。

目の前でしぼり出されたその答えに、でも、ひりひりするほどたしかな思いがこもっているのを感じた。幹がじっくり考えて
決めた選択。決意。光がぼつと灯るような、明るさと熱をもつもの。

佐々矢が大げさに【B】を傾げ、「だめだと思っ？」と訊いてくる。

「最高だと思う」と俺は言った。

(真島めいり『夏のカルテット』PHP研究所より)

問一

1 3 に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、ふにゃつと イ、そつと ウ、くしゃつと エ、ふつと

問二

~~~~線部X・Yの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

X「うわの空」

ア、相手のことを考えて、悩<sup>なや</sup>んでいるようす。

イ、ほかのことが気になって、落ち着かないようす。

ウ、おどろきあきれて、ことはを失うようす。

エ、不安に思っ<sup>て</sup>、行動にうつせないようす。

Y「言いよんどんで」

ア、言うタイミングを逃<sup>のが</sup>して

イ、言うべきことが見つからなくて

ウ、言うことをためらって

エ、言っても仕方ないと思っ<sup>て</sup>

問三 「A」、「B」に入る体の一部を表すことばを、それぞれ漢字一字で答えなさい。

問四 —線部 「いったいどどういう立場で見てたらいいんだろう」とあるが、このときの「俺」のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、幹のオーデイションという張り詰めた雰囲気はどうしてよいか分からず、困惑こんわくしている。
- 2、幹をメンバーにするかどつかの決定権を与えられてしまい、自分に自信が持てないでいる。
- 3、緊張し不安そうなようすの幹を見て、ちゃんとピアノが弾けるのか心配している。
- 4、ピアノすら弾いたことがない自分が、オーデイションにかかわることに不安を感じている。

問五 —線部 「ぴたっと止まってしまった」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、公園のざわめきが気がかりになってしまい、覚えていた音符を忘れてしまったから。
- 2、折りたたみ式の弾きにくいピアノを弾いているため、うまく指が動かず困ってしまったから。
- 3、そのまま一人で二番を歌うのではなく、鯨井さんと一緒にいっしょ歌いたいと思いついたから。
- 4、自分一人で歌うことが怖こわくなり、鯨井さんと歌えばオーデイションに合格できると思ったから。

問六 —線部 「いいライブだった」とあるが、俺がそう感じた理由を「」から。「」に続くように、文中から十字以内でぬき出しなさい。

問七 —線部 「頭の中で一気にパズルが組み合わさって」とあるが、この場合どのような内容を表しているか。「」ということ「」に続くように、文中のことばを用いて四十字以内で説明しなさい。

問八 — 線部 「佐々矢がいきなり話題を変えた」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、いじめのような暗い話題にまったく興味はなく、グループ研究の楽しい話をしたいと考えたから。
- 2、過去に起こった他人の出来事ではなく、自分も関係するこれからのことが気になったから。
- 3、ピアノの上手な幹が、他のグループ研究に参加していなかったことに腹を立てたから。
- 4、幹をいじめた人の名前を、無理矢理言わせようとしている鯨井さんを止めようと思ったから。

問九 — 線部 「ひりひりするほどたしかかな思いがこもっている」とあるが、このときの幹のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、嫌な思い出を乗り越えて、四人でのグループ研究を成功させようと強く思っている。
- 2、グループ研究に後から参加するので、成功させるために頑張らなければと覚悟している。
- 3、この四人のメンバーであれば、いじめられずにグループ研究に打ち込めると安心している。
- 4、自分には良い仲間がいることを実感し、これからの学校生活を頑張りとうと決意している。

問十 本文中のそれぞれの人物像についての説明として適切でないものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、「佐々矢」は自分の気持ちに正直で、どんなことにも真剣に向き合える人物である。
- 2、「幹」は他人の評価が気になる性格で、自分に自信が持てず緊張しやすい人物である。
- 3、「俺」は友達思いの優しい心の持ち主で、周りのことをよく観察している人物である。
- 4、「鯨井さん」は曲がったことが嫌いで、自分が正しいと思ったことを貫く人物である。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

疑うって、ひねくれていることなのか

すぐに人の言うことを受け入れるのではなく、時間をかけて評価しよう。これまで、そういうことを書いてきました。言い換えると、疑う力を身につけようということです。

人を疑うなんて、よくないでしょ。そんなことをしたら、健全なコミュニケーションは生まれません、という反論が返ってきますよね。

でも、相手の話やSNSで書かれていることを、何でもかんでも受け入れてしまうと、苦しくなりますよね。所詮は他人の考えだから、合わないところもあるはずなのに、それを気にしないほうが不健全ですよ。

だから、こう考えませんか。

疑うべきは、人ではなく、言葉だと。

たとえば、コミュニケーションを通じて、心から信頼を寄せる親友ができたとしてもしょう。かといって、親友の言葉がすべて正しいかという点、それは違う。

だって、あらゆる出来事や「A」を知っている人なんていないですからね。たまたま親友が、間違った情報を聞いて、それをあなたに伝えるかもしれない。

誤情報というのは、悪意で流されることよりも、それが「正しい」と信じている人から発信される場合のほうが、はるかに多いんです。

だから、信頼している人の情報でも正しいとは限らない。

全部鵜呑みにした後で、それは間違いだとわかったら、「だまされた！」と言って喧嘩になることや、相手を信用できなくな

ることだってありえます。

1、その人が「だますつもりじゃなかった」としたら、どうですか。怒るのはちょっと待て、となりそうですよね。だから、言葉や情報を時々疑ってみることは、人間関係を壊すどころか、より健全にすると考えてください。

### 情報入手には疑う力が必要

では、なぜ疑う力を養うべきなのでしょう。

それは、あなたがフェイクニュースに振り回されないためであり、根拠もなく不安になることを防ぐためです。そして何より、正確な情報を得るためです。

世の中は情報の洪水状態です。何が正しくて何が誤りなのかを見分けるのは【B】の業で、正確な事実をつかみ取るのは難しい。

でも、疑う力が身につくと、情報の良し悪しを見極める力が高まります。

理屈はわかるけど、そんな力が簡単に得られるのだろうか　と思うでしょう。

確かに簡単じゃありませんが、不可能ではないのです。

まず、前提として自覚してほしいことがあります。

日本人は情報や他人の話を疑うのが苦手だ、ということ。これには、日本独特の文化が影響しているのでしたね。

すなわち　日本は島国で、同じ価値観を共有しているという意識が高い、いわゆる同一性の文化を培ってきました。和をもって貴しとなす　の国ですから、人の話を疑ってかかると、貴い「和」を乱す不心得者かもしれませぬ。

こういう文化の国で疑う力を養うのは難しい話で、相手に疑問をぶつけるだけでも、嫌われる可能性があります。

2、日本では相手の話や情報を肯定的に受け止める習慣があり、疑う力の【C】を邪魔しているわけです。

2章で、私が取材を受けると、三〇秒に一度は、「ええ、わかります」「そうですよね」と合いの手を入れるインタビューがいると書きました。相手を気持ちよくするテクニックとして用いるならともかく、多くの場合、本当に疑いもなく話を受け入れているようです。

誰かが確信を持って話すのを聞いて、たいていの人は「へえ、そうなのか」とあっさり受け入れる。メディアの情報もSNSも、信じることを前提としている。

これが日本の文化です。

そこに異を挟むのは、まさに「空気を読まない」「行為ですね」「空気を読むのはやめよう」と訴えている私に言わせれば、笑止千万ですけれど。

情報を常に疑って受け止めよう、と一念発起すると、これはかなり疲れます。しかも、ますます相手の話が理解できなくなる悪循環です。

なぜなら、事実を全部疑ってかかると、何の話も聞いているのかすらわからなくなりますし、相手は途中で話をやめてしまうでしょう。それが記事なら理解不能となり、読み進められません。

3、何でも疑ってかかるのは、正しい情報収集法とは言えません。

では、どうすればいいでしょう。

ヒントは、あなたが相手の話や情報に接したときの「違和感」にあります。

違和感とは、「ひっかかり」

- 1 こういうときの「違和感」は、「怪我けがをしているわけじゃないけど普段ふだんと少し違ちがう」状態を指しています。
- 2 ほんやり「不快感」とか「賛成できないこと」などをイメージするかもしれませんが。
- 3 でも、スポーツ選手の体調について、記事で「肩かたに違和感があるので、治療ちりょうに専念」と書かれているのを思い起こすと、少しイメージが変わりませんか。

4 違和感という言葉は、よく耳にしますよね。じゃあ、違和感って何？ と問うと、定義するのは意外に難しくないですか。あれ、いつもと違ちがうな。

何かひっかかるな、という感覚。

スポーツ選手の場合、体の違和感を無視すると、取り返しがつかない重症じゅうじょうになることがあります。だから、彼らかれは違和感、つまり無意識に近い「ひっかかり」に敏感びんかんです。

私わたしがみなさんに持つてほしいのは、スポーツ選手の違和感に近いものです。おかしいな、何となく変だ、という「感じ」、その感覚です。

「あれ？」と思う一瞬いっしゆんを大切に

例を挙げてみましょうか。

天気予報で、「明日は必ずかならず雪が降りますから、ご注意ください」と気象予報士が言ったとします。

これを耳にしたら、たぶん「ひっかかり」を感じるでしょう。

なぜなら、未来に起きることは誰にも予想できないのに、予報士が「必ずかならず雪が降る」と断言したからです。

今日は寒くて、明日は雪雲が日本列島を覆おほうというのが、降雪を予報する理由です。だから、根拠がないわけではない。雪が

降る確率が高いかもしれない。

でも、未来のことに「必ず」という副詞をつけることはありません。

だから、多くの人は「なんで断言できるの？」とひっかかるわけです。

これが、もし「」だったら違和感を持たない。その表現ならば、可能性を語っているとわかるからです。

このように、情報を耳にしたり読んだりしたときに「あれ？」と思う一瞬。その違和感を大事にしましょう。

(真山仁『正しい』を疑え！』 岩波ジュニア新書 より)

問一  1  3 に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ

ものは使えない。)

ア、それとも      イ、でも      ウ、つまり      エ、だから

問二 【A】～【C】に入る二字のことばを次の漢字を組み合わせてそれぞれ作りなさい。

完 象 至 困 養 仕 難 成 事



問三 〓線部 a・b と同じ用法のものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a 「な」

ア、公園の大きなケヤキの木。

イ、今にも崩れそうな家だ。

ウ、風邪なので学校を休んだ。

エ、穏やかな目をしている。

b 「の」

ア、私には警察官の弟がいる。

イ、彼の書いた本を買ってみた。

ウ、小説を読むのは難しい。

エ、コンビニの店員に聞いてみる。

問四 〓線部 X「和」とほぼ同じ意味で「和」が用いられている熟語として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えな

さい。

ア、温和      イ、調和      ウ、中和      エ、英和

問五 本文には次の一文がぬけている。どこに入れたらよいか、この直前（直前）にくる五字をぬき出しなさい。

でも、多くの人に相手の話や情報を疑う習慣はないので、なかなか厄介（厄介）です。

問六 — 線部 「健全なコミュニケーション」とあるが、そうするために必要なことは何か。文中から十五字以内でさがし、初めと終わりの三字をぬき出さない。

問七 — 線部 「疑うべきは、人ではなく、言葉だ」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、どんなに親しい人であっても、その人の考えを理解することはできないから。
- 2、どんな人でも、すべての情報に対する真偽を判断できるわけではないから。
- 3、心から信頼を寄せる親友を困らせようとして、嘘をつく人は存在しないから。
- 4、世間の人は善意から様々な情報を伝えているので、間違いを責められないから。

問八 — 線部 「日本の文化」とはどのようなものか。「文化」に続くように文中のことはを用いて四十五字以内で答えなさい。

問九 — 線部 「違和感」とあるが、それはどのようなものか。スポーツ選手と同じような違和感を覚えるときの具体例として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、先生が国語の授業中に配ったプリントに漢字の間違いを見つけたとき。
- 2、テレビの音楽番組で、知らない楽曲がランキングの上位にきていたとき。
- 3、運動会の種目決めで、自分のやりたい競技がみんなに選ばれなかったとき。
- 4、通学の途中で自転車のブレーキを握ると、ききが悪かったとき。

問十 ……線部で囲まれた部分の1～4を正しい順序に並べかえ、番号で答えなさい。

問十一 文章が成立するように、に入る適切な表現を十五字以内で考えて答えなさい。

問十二 本文の内容と合っているものを次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1、私たちはどんな場面でも、他人の言うことを時間をかけて評価するべきだ。
- 2、友人が言うことを無条件に受け入れると、よりよい関係を築くことができる。
- 3、疑う力を身につけていけば、フェイクニュースにだまされることはなくなる。
- 4、会話中適度に合いの手を入れることは、相手を話しやすくさせるために大事だ。
- 5、相手の話が理解できなくなった場合、疑うことをやめてみるとよい。
- 6、スポーツ選手は、普通の人にはない体の不調を感じ取る力を持っている。

|     |     |    |    |    |    |    |     |
|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|
| 問十二 | 問十二 | 問九 | 問八 | 問五 | 問三 | 問一 | 【三】 |
|     |     |    |    |    |    | 1  |     |
|     |     | 問十 |    |    |    | 2  |     |
|     |     |    | 文  |    |    | 3  |     |
|     |     |    |    | 問六 |    |    | 問二  |
|     |     |    |    |    | 問四 |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    | 問七 |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |
|     |     |    |    |    |    |    |     |

|    |    |    |    |    |     |
|----|----|----|----|----|-----|
| 問八 | 問七 | 問四 | 問三 | 問一 | 【三】 |
|    |    |    | A  | 1  |     |
| 問九 |    | 問五 |    | 2  |     |
|    |    |    | B  | 3  |     |
|    |    | 問六 |    |    | 問二  |
| 問十 |    |    |    | X  |     |
|    |    |    |    | Y  |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |
|    |    |    |    |    |     |

|    |    |    |     |
|----|----|----|-----|
| 問四 | 問二 | 問一 | 【三】 |
| 大  |    |    |     |
|    | 問三 |    |     |
|    |    |    |     |
| 問五 |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |
|    |    |    |     |

|      |
|------|
| 受験番号 |
| 氏名   |
| 得点   |